

令和4年度教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び 評価の結果について

1 目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、日立市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況を自ら点検及び評価し、教育行政の課題や取組の方向性を明らかにし効果的な教育行政の推進に資するとともに、その結果を公表し市民への説明責任を果たしていくことを目的とする。

2 対象

令和3年度に、教育委員会が管理及び執行した事務を点検及び評価の対象とした。

3 実施方法

(1) 内部評価

日立市教育振興基本計画の特徴である「未来を拓くプロジェクト」及び「ひたちらしさを活かした取組」を8つの施策として位置付けて、施策の取組内容、課題及び今後の方向をまとめた施策評価調書を作成した。

(2) 外部評価

施策評価調書の各施策等について、教育行政点検評価委員の評価及び意見を得た。

4 教育行政点検評価委員（順不同、敬称略）

氏 名	所 属 等
柴 田 彪	元学校長
飛 田 隆	日立市社会教育委員
金丸 さつき	日立市立小・中学校PTA連合会

5 今後の取組

点検評価委員からの意見を基に今後の事業へのフィードバックを行い、今後の施策の検討を進め、将来を担う人材を育成するとともに、豊かな文化を育む教育行政の推進に努める。

6 点検及び評価の概要 別紙のとおり

7 報告書 別冊のとおり

令和4年度教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の概要（対象年度：令和3年度）

1 各施策に対する内部評価及び外部評価

未来を拓くプロジェクト			
施策名	取組の内容	内部評価【取組の成果（抜粋）】	外部評価【点検評価委員からの意見（抜粋）】
① 確かな学力の育成	ア 確かな学力の育成 イ 新学習指導要領による授業の実践 ウ 情報活用能力の育成 エ 小中連携・一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 若手教員（初任者）を対象とした研修会を実施し、初任者同士の連携を深め、教員としての基本的な資質、使命感を養うことができた。 学校でのICT活用に係るマニュアル・事例集であるGIGAスクールハンドブックにより、系統的なプログラミング教育の実践を促すことができた。また、各校のプログラミング教育を含むICTの効果的な実践例を収集し、周知することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 初任者対象の研修を始め、様々な教員研修により一定の成果や連携ができていると思う。今後も引き続き、授業改善や教材研究を進め、質の高い研修を更に進めていただきたい。 「個別最適な学び」や「協働的な学び」としてのICT教育を考えたとき、本市においてもICT教育の多様で効果的な活用の研修が計画的に推進されているが、子どもたちの機器操作の著しい技能的な進歩に対し、教師側のICT教育の必要性、タブレット等の操作・技能等が十分に伴っていない現状が感じられる。
② 教育環境の向上	ア 学校施設の整備 イ 通学路安全対策の推進 ウ 学校・家庭・地域との連携により子どもたちを育てる取組の推進 エ 学校再編 オ 教職員の働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 再編対象校の教職員、保護者、学校運営協議会委員等への説明会を実施し、再編の必要性への共通理解を図ることができた。 働き方改革の推進に当たり、学校における取組として、通知表の記載項目の見直し等を行い、勤務時間の短縮を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校再編計画に関しては保護者の関心が非常に高いが、具体的な話合いに関しては難しさも感じている。引き続き丁寧な対応をお願いしたい。 「通知表の記載項目の見直し」に伴う面談については、学年の後半で子どもの様子を知ることができて、子どもが成長した点や今後の課題について理解することができ、親子にとってもプラスの面が大きい。今後も続けてもらいたい。
③ 放課後や休日の活動環境の充実	ア 放課後児童対策の推進 イ 子どもの地域活動への参加推進	<ul style="list-style-type: none"> 公設児童クラブについては、令和4年度から民間事業者のノウハウを生かしサービス拡充を図ることを目的に、放課後子ども教室と併せて、民間事業者に委託する準備を進め、児童が放課後を豊かに過ごす環境を整えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後児童対策の推進については、新規教室の開設など拡充が進んでいると思う。今後も進めていただきたいと考えるが、同時に放課後活動内容について、体験の充実や豊かに過ごす環境の整備、一人一人に合った過ごし方の工夫についても検討していただきたい。
④ 文化財の活用	ア 文化財の保存と活用の推進 イ 郷土博物館の魅力づくり	<ul style="list-style-type: none"> 長者山遺跡のビジターセンター整備の検討及びAR展示活用の調査研究に着手した。また、長者山遺跡に関するガイドツアーを実施し、遺跡の説明・案内看板等を設置した。 収蔵資料展「ひたちのカワイイもの展」で、ジャンルを超えた新たな視点からの資料展示を行い、幅広い層にアピールするよう工夫することで、好評を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> 長者山遺跡を始めとし、十王前横穴墓群及びその他文化財等の案内板、説明板の設置は、市民への文化財への意識高揚及び地域の観光の活性化のためにも効果大と思う。引き続き、啓発活動の延長と周辺環境整備をお願いしたい。 近隣の市町村との連携や県と一緒に特別展などを企画してはどうかと思う。
⑤ スポーツの振興	ア 市民運動公園、スポーツ広場等施設整備の推進 イ スポーツ合宿の誘致推進 ウ スポーツに関する情報の提供 エ 東京2020オリンピック関連事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> 市民運動公園の施設整備（池の川さくらアリーナ大型映像装置設置、陸上競技場屋外トイレ改築・照明設備設置、テニスコート練習場整備等）を実施したことで、利用環境の向上を図ることができた。 選抜高等学校野球大会（明秀日立）や都市対抗野球大会（日立製作所野球部）等の全国大会出場について、報道機関への情報提供を行ったほか、懸垂幕の掲示をすることで、市民のスポーツに対する関心を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民運動公園、スポーツ広場等の施設整備、環境整備が進み、利用者の利便性が向上したのではないかと考える。今後も必要に応じて施設の改善、修繕等に取り組んでいただきたい。 市民に向けた日常的なスポーツに関する情報提供や健康増進につながる企画等も計画していただきたい。
「ひたちらしさ」を活かした取組			
施策名	取組の内容	内部評価【取組の成果（抜粋）】	外部評価【点検評価委員からの意見（抜粋）】
⑥ 未来を拓く力を育む学校教育	ア 未来を拓く力を育む学校教育 イ 未来パスポートの活用 ウ 教育環境の充実 エ 保護者の教育費負担軽減に関する取組 オ 学校給食の充実	<ul style="list-style-type: none"> 日立理科クラブの授業支援や小学校全校に配置した「理科室のおじさん」の授業支援等により、各小・中学校の児童生徒の理科、科学に関する知識を深めることができた。 児童生徒1人1台のタブレット端末など、各校で使用するICT機器の維持管理、運用サポートを行ったほか、電子黒板の導入を開始し、更なる教育環境の充実を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 科学学習の推進は「未来を拓く人づくり」の礎となり、それぞれの事業推進はひたちらしい先進的な取組である。更なる人材育成や確保を図り、施策の充実を望みたい。 ICTを活用した授業の取組が進む中で、体験型、実践型の学びの重要性がますます必要になってくるのではないかと考える。
⑦ 生きがいや喜びを見出す生涯学習	ア 職業探検少年団への支援 イ ラジオ体操の普及推進 ウ ひたち生き生き百年塾の活動推進 エ 子ども読書活動の推進及び図書館サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の一つとして、子どもたちが将来への夢を持ち、自立していくことを目的に活動する職業探検少年団の運営を支援することができた。 読書活動の推進施設として、読書環境の整備、読書に親しむ機会の充実及び関係機関との連携により、子ども読書活動の啓発・推進を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の一つとして職業探検少年団の取組はユニークで貴重な体験になると思うので今後も推進していただきたい。 子どもの読書活動の推進はとても大切だと考える。幼児期から図書館を利用することで多くの本と出会い、保護者に好きな本を読んでもらうことは本好きな子どもを育てることになる。
⑧ 健康と活力を生み出すスポーツ	ア 池の川さくらアリーナの活用推進 イ 日立さくらロードレースの開催 ウ 地域と連携したスポーツへの多様な参加機会の充実 エ スポーツクラブ・団体の育成	<ul style="list-style-type: none"> 競技団体や指定管理者等と連携を図り、国内トップレベルの試合・大会、文化イベント等を誘致し、国内トップレベルのスポーツ試合の開催を支援することができた。 日立市スポーツ協会と連携しながら、スポーツ少年団の普及及び育成を推進するための活動を支援したことにより、スポーツ少年団の活動の促進につなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児期から体を動かす習慣を付けたり、体を動かすことが好きな子どもに育てることは、生涯にわたり健康維持に大切なことであり、子どもの頃に一流のスポーツ選手を見たり触れ合うことは、スポーツに興味・関心を持つことにつながる。 スポーツ少年団については、参加する際の保護者の負担など、運営方法等による団員数の減少といった側面もあり、問題の難しさを感じる。

2 報告書全体に対する意見

柴田 彪 委員 <元学校長>

- ① 「令和の日本型学校教育」では、「個別最適な学び」「協働的な学び」が示され、それを担うのは、教員としての総合的な人間力、教師としての働く意欲と気概、情熱を持ち合わせた優秀な教職員であり、その育成が急務である。小学校中学年（3～4年）段階は、基礎学力の定着時期ともいわれ、また子どもたち1人1人に学力の差が生じ始める学年ともいわれている。そこで中学年担任教師に対し、学習・生活指導両面を含め、特化した研修体系を講じていただきたい。
- ② 教員の長時間勤務は看過できない現状である。教科担任制、専科教員の配置、学級担任の持ち時間、スクールサポーターの補充、部活動指導者等、様々な要因が複合的に関連し、容易には解決できない課題ではあるが、学校現場の現状を鑑み、市町村レベルでの迅速かつ人的・物的両面からの大胆な財政的支援を講じ、教職員の定数改善・処遇改善の促進に努めていただきたい。

飛田 隆 委員 <日立市社会教育委員>

- ① 放課後や休日の活動環境の充実については、新規教室の開設など、放課後児童対策の拡充が進んでいる。保護者のニーズに沿ったサービスの拡充も大切であるが、子どもたちの気持ちや考え方にも十分配慮し、保護者と一緒に過ごす時間を確保するため、親子で楽しむ企画などの充実も検討いただきたい。
- ② 「ひたらしさを活かした取組」の未来を拓く力を育む学校教育においては、ICTを活用した授業の取組が進む中で、体験型、実践型の学びの重要性が増すことを理解して進めていただきたい。その他、特別に配慮が必要な子どもの支援や保護者への相談体制等の充実を期待したい。

金丸 さつき 委員 <日立市立小・中学校PTA連合会>

- ① ICTの活用について、当初はリモート授業の実施の仕方や対面授業でのタブレットの活用など、各校で試行錯誤があるように感じられたが、徐々に様々な授業に活用され、内容も向上し、学習の大きな助けになったと感じている。保護者として家庭内においても、このツールを良い形で活用し続けられるように、努力が必要になると感じた。
- ② コロナ禍において、本市でも教育に関わる事業を実施するために、工夫を重ねていることが感じられた。感染状況によっては中止せざるを得ないものもあり、窮屈さや疲れを感じることも多かった。その中で改めて感じるのは「子どもたちのたくましさ」である。様々な制限がある生活の中で楽しみを見つけ、友達を作り、順応しながら過ごす子どもたち。それも多くの支えがあるからこそであり、子どもたちを支えてくれる方々に心から感謝したい。

以上